

1/1

【科目名】	看護と倫理			Ethics in Nursing		
【開講時期】	2025年度後期	【必修区分】	必修/選択		【単位数】	1単位
【授業形態】	講義・演習				【授業時間数】	15時間
【科目責任者】	*山下早苗					
【担当教員】	*山下早苗					
【授業の概要】	社会の変化により人々の価値観は多様化している。そのため、看護職は日常の看護実践に伴う倫理的感受性を高め、倫理的に思考し行動する必要がある。本科目では、看護倫理の歴史の変遷を学び、看護倫理とは何かを考え、看護倫理における基準や概念など倫理的知識を持った思考力を養う。					
【キーワード】	道徳、看護倫理、道徳的感受性、道徳的知識、道徳的思考					
【D P との関連】	☐ DP1-1 ☒ DP1-2 ☒ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4 ☐ DP5 ☐ DP6					
【到達目標】	1. 看護倫理に関する知識を有している。 2. 看護専門職としての役割責任を考えることができる。 3. 倫理的課題について倫理的知識を持って思考できる。					
【授業方法】	教科書・配布資料を活用し授業を進める。また、毎回の授業で課題に対する討議を行う。					
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】		
第1回	倫理と道徳			事前：授業内容に該当する教科書予習 事後：学習内容の整理		
第2回	倫理学の分類と看護倫理の歴史の変遷			事前：授業内容に該当する教科書予習 事後：学習内容の整理		
第3回	看護倫理に関係する重要な概念：和、コンパッション、ケアリング、専門職			事前：授業内容に該当する教科書予習 事後：学習内容の整理		
第4回	看護専門職としての役割責任：アドボカシー、協働、倫理綱領			事前：授業内容に該当する教科書予習 事後：学習内容の整理		
第5回	倫理的能力のある看護師とアサーション			事前：授業内容に該当する教科書予習 事後：学習内容の整理		
第6回	日常の看護実践における倫理的課題：パターナリズムとインフォームドコンセント、プライバシーと守秘義務			事前：授業内容に該当する教科書予習 事後：学習内容の整理		
第7回	看護研究における倫理			事前：授業内容に該当する教科書予習 事後：課題レポート		
第8回	まとめ			第1～7回までの学習内容の整理		
【準備学習時間】	各回の標準学習時間90分程度					
【履修条件】	なし					
【関連科目】	専門領域の概論科目					
【評価方法】	開講回数の2/3以上の出席を単位認定の前提とする。 課題レポート70%（DP2：到達目標2・3に対応）、小テスト30%（DP1-2：到達目標1に対応） 課題レポートの評価基準と小テストの時期については初回で説明する。					
【フィードバックの方法】	・リフレクションペーパーに記載した「授業の感想と質問」のフィードバックは、授業時に行う。 ・小テストの結果は授業時に開示する。					
【テキスト】	看護倫理　よい看護師への道しるべ　改訂第3版／編集　小西恵美子／南江堂／ISBN：978-4-524-22508-8					
【参考図書】	適宜紹介					
【アクティブラーニングを促す方法】	☒ A　ディスカッション／ディベート ☒ B　グループワーク ☐ C　プレゼンテーション ☐ D　実習／フィールドワーク ☐ E　その他（　　　　　） ☐ F　該当なし					
【実務経験のある教員による授業】	*看護師として実務経験がある教員が、日常の看護実践における倫理的課題の経験を生かして講義を行う。					

【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	可（但し日本語）

【科目名】	社会福祉論			Theories and Issues of Social Welfare		
【開講時期】	2025年度後期	【必修区分】	必修		【単位数】	1単位
【授業形態】	講義				【授業時間数】	15時間
【科目責任者】	江原 勝幸					
【担当教員】	江原 勝幸					
【授業の概要】	社会福祉の意義、理念、法・制度など社会福祉の基盤を学び、現代社会で援助を必要とする個人・家族及び地域社会の課題に対する支援や解決方法を理解する。その上で、保健医療と福祉が連携・協働して地域の生活課題に取り組む必要性やその方法について学ぶ。					
【キーワード】	ヒューマンライツ、ダイバーシティ、インクルージョン					
【D P との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP3 □P4 □DP5 □DP6					
【到達目標】	1. 社会福祉の意義、理念、目的など福祉実践の基盤となる人間尊重の原則について理解できる。 2. 現代社会の構造的な問題から生ずる多様で複合的な地域の生活課題の現状と課題を理解できる。 3. 看護学と社会福祉の関係性を踏まえ、生活で困難を抱えている人々への包括的な支援について理解できる。					
【授業方法】	各授業の前半では、配布したレジュメ及び資料に沿った各授業テーマに即した講義を行う。 各授業の後半では、前半の授業テーマ・内容に関連するD V D映像を視聴し、配布したワークシートの講義及び映像に関する感想・意見・質問をまとめ記入し、授業の学びを深める。					
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】		
第 1 回	「社会福祉」とは何か：現代社会と福祉			事前：社会福祉に色イメージをつけ、その色をつけた理由をノートにまとめる。 事後：自分の色イメージがどこからきて、なぜその色イメージなのか考察する。		
第 2 回	災害と福祉：誰一人取り残さないインクルーシブな防災活動			事前：要配慮者の避難行動や避難生活の問題や困難についてノートにまとめる。 事後：災害時に保健医療福祉専門職及び地域住民にできること・すべきことを整理し、その為の平常時からの取り組みをノートにまとめる。		
第 3 回	日本国憲法と福祉：基本的人権の本質			事前：日本国憲法前文を声に出して読んでおく。 事後：第11条、第12条、第13条、第14条第1項、第25条を中学生がわかる言葉で言い換えて条文を理解する。		
第 4 回	健康で文化的な生活とは：機能するセーフティネットへ			事前：生活困窮者を支える社会のセーフティネットについて概要を押さえておく。 事後：セーフティネットから零れ落ちる理由や原因を調べ、それを防ぐために必要な対応策について考察する。		
第 5 回	社会福祉の史的変遷：措置から権利擁護へ			事前：措置制度とサービス利用制度の特徴や違いを調べてノートにまとめる。 事後：居住市町村の地域福祉計画と重層的支援体制整備事業の実施状況について調べてみる。		
第 6 回	保健医療と福祉の連携：Care by the Communityの実現			事前：自分が居住する地域の特性や課題を調べノートにまとめる。 事後：居住市町村の地域包括ケアシステムの実施状況について調べてみる。		
第 7 回	これからの社会と福祉：地域共生社会の実現に向けて			事前：我が国の人口動態（年少人口、生産年齢人口、老年人口）の推移（実測値・推計値）を調べ、今後予想される日本社会の課題を調べノートにまとめる。 事後：第1講目でつけた色イメージを振り返り、現段階での色イメージがどこからきて、なぜそのイメージなのか考察する。		
第 8 回	まとめ					
【準備学習時間】	各回の標準学習時間90分程度					
【履修条件】	なし					
【関連科目】	保健福祉行政論					
【評価方法】	開講回数 ² / ₃ 以上の出席を単位認定の前提である。 授業でのワークシート60％（DP1-2：到達目標1・2に対応）、提出課題レポート40％（DP1-2：到達目標3に対応）					
【フィードバックの方法】	第1講～第6講で実施するワークシートで書かれた感想等については必ず目を通し、その中で特に優れた視点や独創的な意見等及び質問への回答などをいくつか次回講義冒頭で紹介する。					
【テキスト】	なし。各授業時にレジュメ・関連資料配布し、参考資料を紹介する。					

【参考図書】	適宜紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	☐ A ディスカッション／ディベート ☐ B グループワーク ☐ C プレゼンテーション ☐ D 実習／フィールドワーク ☐ E その他（ ） ☒ F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	該当なし				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	微生物学			Microbiology		
【開講時期】	2025年度後期	【必修区分】	必修		【単位数】	1単位
【授業形態】	講義				【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	内藤博敬（非常勤）					
【担当教員】	内藤博敬（非常勤）					
【授業の概要】	微生物（細菌、ウイルス、真菌、原虫） の分類、微細構造・形態学的特徴、生化学的性状・生物学的特徴、増殖、感染について概説する。様々な病原微生物がどのように感染症を引き起こすかについて、感染源、感染経路、宿主の生体防御機構（免疫）を含めて概説する。様々な滅菌・消毒法（消毒薬を含む）の特徴・適用、治療薬、現在の感染症動向、新興・再興感染症の特徴や国としての予防対策について概説する。					
【キーワード】	細菌、ウイルス、感染症、免疫、感染症法					
【D P との関連】	☐ DP1-1 ☒ DP1-2 ☐ DP3 ☐ DP4 ☐ DP5 ☐ DP6					
【到達目標】	1. 様々な感染症の原因病原体及び病原因子、発症機構、予防・診断・治療法を説明できる。 2. 生体防御免疫について説明できる。 3. 様々な滅菌・消毒法の性質・適用を理解し、実践できる。 4. 感染症動向と感染症法について、適切な情報を得て説明することができる。					
【授業方法】	講義形式で行う。テキストに添って、実際の微生物・感染症の病態の写真等を独自にまとめて作成したスライドを使用して行う。また、講義前に講義内容のプリントを設問形式で配布し、講義後に模範解答を配布する。					
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】		
第 1 回	微生物学概論					
第 2 回	微生物と微生物学			プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる		
第 3 回	細菌1 （形態学的特徴）			プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる		
第 4 回	細菌2 （生化学的特徴）			プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる		
第 5 回	ウイルス			プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる		
第 6 回	真菌、原虫および寄生虫			プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる		
第 7 回	感染と感染症、第1部小テスト			プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる		
第 8 回	感染経路			プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる		
第 9 回	生体防御機構1（自然免疫）			プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる		
第 1 0 回	生体防御機構2（獲得免疫）			プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる		
第 1 1 回	細菌、ウイルス、真菌の感染メカニズム			プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる		
第 1 2 回	感染症予防／消毒・滅菌			プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる		
第 1 3 回	感染症の検査と治療			プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる		
第 1 4 回	感染症の現状と対策			プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる		
第 1 5 回	まとめ・期末考査			プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる		
【準備学習時間】	各回の標準学習時間90分程度					
【履修条件】	特になし					
【関連科目】	基礎健康科学演習					
【評価方法】	開講回数の2/3以上の出席が単位認定の前提である。 成績は定期試験100％で評価する（DP1-2：到達目標1～4に対応）。					

【フィードバックの方法】	小テストは期末試験に向けた模擬考査（期末試験がこういった形式で行われるか体感する）として行う。実施後に採点して返却する。				
【テキスト】	系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進 ④／南嶋洋一 他（著）／医学書院／978-4-260-04702-9				
【参考図書】	感染制御の基本がわかる 微生物学・免疫学／増澤俊幸（著）／羊土社／978-4-7581-0975-8 わかる！身につく！病原体・感染・免疫 改訂3版／藤本秀士他（著）／南山堂／978-4-525-16233-7 ナースィング・グラフィカ 疾病の成り立ち③ 臨床微生物・医動物／矢野 久子 他（編）／メディカ出版／978-4-8404-7526-6				
【アクティブラーニングを促す方法】	☐ A ディスカッション／ディベート ☐ B グループワーク ☐ C プレゼンテーション ☐ D 実習／フィールドワーク ☐ E その他（ ） ☒ F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	なし				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	不可

【科目名】	日本国憲法			The Constitution of Japan		
【開講時期】	2025年度後期	【必修区分】	選択		【単位数】	2 単位
【授業形態】	講義				【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	根本猛					
【担当教員】	根本猛					
【授業の概要】	基礎的な解釈論を中心に解説する。現代的な憲法問題にも触れる。					
【キーワード】	立憲主義、人権、国民主権、平和主義					
【D P との関連】	■DP1-1 □DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6					
【到達目標】	国民主権、人権の尊重、平和主義など日本国憲法の基本原理を理解し、簡単な質問に答えられる					
【授業方法】	講義形式					
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】		
第 1 回	憲法って何？			事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習		
第 2 回	国民主権と天皇制			事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習		
第 3 回	平和主義 1 9 条と自衛隊			事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習		
第 4 回	平和主義 2 20世紀末以降の展開			事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習		
第 5 回	人権って何？			事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習		
第 6 回	外国人の人権			事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習		
第 7 回	法の下での平等			事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習		
第 8 回	人身の自由			事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習		
第 9 回	信教の自由と政教分離			事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習		
第 1 0 回	表現の自由			事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習		
第 1 1 回	職業の自由			事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習		
第 1 2 回	生存権			事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習		
第 1 3 回	教育を受ける権利			事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習		
第 1 4 回	参政権			事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習		
第 1 5 回	まとめ			事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習		
【準備学習時間】	教科書の該当ページを読んでから授業に臨みましょう					
【履修条件】	特にありませんが、憲法や政治に関心がないと辛いです					
【関連科目】	なし					
【評価方法】	開講回数数の2/3以上の出席が単位認定の前提である。 毎回の課題の評価（90％）と期末試験（10％）で評価する（DP1-1：到達目標1に対応）。					
【フィードバックの方法】	必要に応じて講義内でフィードバックする					
【テキスト】	いちばんやさしい憲法入門／初宿正典ほか／有斐閣アルマ／ISBN 978-4641221505					
【参考図書】	特になし					

【アクティブラーニングを促す方法】	該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊憲法を専門とする講師が経験を交えて教授する。				
【その他】	各授業の前にはできるだけ教科書の該当箇所を読んで授業に臨みましょう。 なお、大学生になったら新聞を読もう。そして選挙では投票にも行きましょう。				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	不可

【科目名】	慢性看護学概論			Introduction to Chronic Care Nursing		
【開講時期】	2025年度後期	【必修区分】	必修		【単位数】	2単位
【授業形態】	講義				【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	＊ 山田 紋子					
【担当教員】	＊ 山田 紋子、＊ 林 みよ子、＊ 前野 真由美、＊ 鈴木 郁美、＊ 中岡 正昭、＊ 長谷部 美紀					
【授業の概要】	慢性看護学とは、がん、生活習慣病、難病などの慢性疾患を有する人々とその家族を対象とし、診断・治療導入期から終末期までのさまざまな健康レベルに対する看護に関する学問である。本授業は、成人期を中心に、慢性疾患及び慢性期の治療を受けながら闘病・療養する人々とその家族を身体的・心理的・社会的に統合された存在として理解し、可能な限りその人らしい生活と人生を送るための看護実践に必要な基礎的知識を修得することを目的とする。					
【キーワード】	成人期の特徴、看護過程の展開、健康問題と看護支援					
【D P との関連】	DP1-2					
【到達目標】	1. 成人期にある人々の身体的・心理的・社会的特徴を理解できる。 2. 成人期にある患者に対する看護過程の展開方法を理解できる。 3. 慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の理解と看護実践に必要な主理論の概要を理解できる。 4. 代表的な慢性疾患を有する患者とその家族の特徴及び健康問題とそれに対する看護支援を理解できる。					
【授業方法】	講義、小グループディスカッション					
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】		
第 1 回	ガイダンス／ライフステージからみた成人期の特徴と健康問題（山田紋子・林みよ子）			事前：テキストP.56-66を読む 事後：授業で学んだ内容をまとめる		
第 2 回	成人期にある患者に対する看護過程の展開①（山田紋子）			事前：看護過程展開方法の復習 事後：授業で学んだ内容をまとめる		
第 3 回	成人期にある患者に対する看護過程の展開②（山田紋子）			事前：第2回の授業内容の復習 事後：授業で学んだ内容をまとめる		
第 4 回	成人期にある患者の理解と看護実践に必要な理論①（山田紋子）			事前：第1回で学んだ成人期の特徴の復習 事後：授業で学んだ内容をまとめる		
第 5 回	成人期にある患者の理解と看護実践に必要な理論②（山田紋子）			事前：第4回の授業内容の復習 事後：授業で学んだ内容をまとめる		
第 6 回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の理解と看護実践に必要な理論（林みよ子）			事前：第4回・第5回の授業内容の復習 事後：授業で学んだ内容をまとめる		
第 7 回	セルフケアへの支援、患者教育のために必要な知識と技術（林みよ子）			事前：テキストP.92-95、P.117-132を読む 事後：授業で学んだ内容をまとめる		
第 8 回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の看護①－内分泌疾患（前野真由美）			事前：糖尿病の病態・検査・治療の復習 事後：授業で学んだ内容をまとめる		
第 9 回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の看護②－脳神経疾患（鈴木郁美）			事前：脳神経の解剖生理の復習 事後：授業で学んだ内容をまとめる		
第 1 0 回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の看護③－腎機能障害（林みよ子）			事前：腎臓の解剖生理の復習 事後：授業で学んだ内容をまとめる		
第 1 1 回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の看護④－消化器疾患（長谷部美紀）			事前：肝臓の解剖生理の復習 事後：授業で学んだ内容をまとめる		
第 1 2 回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の看護⑤－循環器・呼吸器疾患（中岡正昭）			事前：心臓と肺の解剖生理の復習 事後：授業で学んだ内容をまとめる		
第 1 3 回	がん患者の看護①（山田紋子）			事前：テキストP.197-220、232-238を読む 事後：授業で学んだ内容をまとめる		
第 1 4 回	がん患者の看護②（山田紋子）			事前：第12回の授業内容の復習テキスト 事後：授業で学んだ内容をまとめる		
第 1 5 回	まとめ（山田紋子）			事前：テキストや授業資料の総復習 事後：各自で期末試験対策に取り組む		
【準備学習時間】	各回の標準学習時間90分程度					
【履修条件】	機能形態学Ⅰ、機能形態学Ⅱ、症候論、病態学の単位を取得していること					
【関連科目】	機能形態学Ⅰ、機能形態学Ⅱ、症候論、病態学、看護アセスメント演習、看護アセスメント方法論					
【評価方法】	開講回数の2/3以上の出席を単位認定の前提とする 筆記試験80％（DP1-2：到達目標1～4に対応）と小テスト20％（DP1-2：到達目標4に対応）を総合して評価する。					

【フィードバックの方法】	小テスト：実施後に正解を提示し次回授業時に解答用紙を返却する。				
【テキスト】	・慢性期看護（病気とともに生活する人を支える）／鈴木久美 他／南江堂／ISBN978-4-524-23436-3 ・系統看護学講座・専門分野Ⅱ・成人看護学2～15／医学書院 【病態学のテキスト】 ・NANDA-I看護診断（定義と分類）／上鶴重美監訳／医学書院 【看護アセスメント演習のテキスト】				
【参考図書】	・臨床活用事例でわかる中範囲理論／黒田裕子／日総研／ISBN978-4-7760-1908-4 ・その他、適宜、授業中に紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	■B グループワーク				
【実務経験のある教員による授業】	*看護師として慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者に対する臨床実践経験を有する教員が教授する。				
【その他】	・【事前課題】に取り組んで授業に臨む。				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	可(日本語による授業)

【科目名】	小児看護学概論			Introduction to Child Health Nursing		
【開講時期】	2025年度後期	【必修区分】	必修		【単位数】	2単位
【授業形態】	講義				【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	*山下早苗					
【担当教員】	*山下早苗、*鈴木和香子、*上松あゆみ（非常勤）、*北山浩嗣（非常勤）、*荘司貴代（非常勤）、*満下紀恵（非常勤）、*渡邊健一郎（非常勤）					
【授業の概要】	小児看護の基礎的知識を養うために、小児医療・看護の歴史の変遷を学び、小児看護の目的や対象について理解する。また、小児期の成長発達段階や社会制度、小児看護で必要な理論を学び、乳幼児期における成長発達の支援について理解する。さらに、小児看護の基礎的知識として小児期における代表的疾患の特徴についても学ぶ。					
【キーワード】	小児の成長発達、小児看護で必要な理論、小児を取り巻く社会制度、小児期の代表的疾患					
【D P との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6					
【到達目標】	成長発達段階における小児を対象とする看護の基礎的知識を修得する。					
【授業方法】	教科書・配布資料・DVDを活用しながら、授業を進める。					
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】		
第 1 回	小児看護の歴史の変遷や目的（山下早苗）			事前：授業内容に該当する教科書予習 事後：学習内容の整理		
第 2 回	小児看護の活動の場の特徴（山下早苗）			事前：授業内容に該当する教科書予習 事後：学習内容の整理		
第 3 回	小児の成長発達：身体の構造（山下早苗）			事前：授業内容に該当する教科書予習 事後：学習内容の整理		
第 4 回	小児の成長発達：身体の機能1（山下早苗）			事前：授業内容に該当する教科書予習 事後：学習内容の整理		
第 5 回	小児の成長発達：身体の機能2（山下早苗）			事前：授業内容に該当する教科書予習 事後：学習内容の整理		
第 6 回	小児の成長発達評価、小児看護で必要な理論（山下早苗）			事前：授業内容に該当する教科書予習 事後：学習内容の整理		
第 7 回	小児を取り巻く社会制度と諸統計、小児看護の倫理（山下早苗）			事前：授業内容に該当する教科書予習 事後：学習内容の整理		
第 8 回	乳幼児期の成長発達支援：栄養（鈴木和香子）			事前：授業内容に該当する教科書予習 事後：学習内容の整理		
第 9 回	乳幼児期の成長発達支援：日常生活の自立（鈴木和香子）			事前：授業内容に該当する教科書予習 事後：学習内容の整理		
第 1 0 回	小児期の代表的疾患：循環器・呼吸器疾患（満下紀恵）			事前：授業内容に該当する教科書予習 事後：学習内容の整理		
第 1 1 回	小児期の代表的疾患：感染症、免疫・アレルギー性疾患（荘司貴代）			事前：授業内容に該当する教科書予習 事後：学習内容の整理		
第 1 2 回	小児期の代表的疾患：消化器疾患、腎・泌尿器疾患（北山浩嗣）			事前：授業内容に該当する教科書予習 事後：学習内容の整理		
第 1 3 回	小児期の代表的疾患：内分泌・代謝性疾患、先天異常（上松あゆみ）			事前：授業内容に該当する教科書予習 事後：学習内容の整理		
第 1 4 回	小児期の代表的疾患：血液・腫瘍性疾患（渡邊健一郎）			事前：授業内容に該当する教科書予習 事後：学習内容の整理		
第 1 5 回	まとめ（山下早苗）			第1～14回までの学習内容の整理と期末試験準備		
【準備学習時間】	各回の標準学習時間90分程度					
【履修条件】	なし					
【関連科目】	小児看護援助論、小児看護学演習、小児看護学実習					

【評価方法】	開講回数の2/3以上の出席が単位認定の前提である。 期末試験100%（DP1-2：到達目標1に対応）				
【フィードバックの方法】	・リフレクションペーパーに記載した「授業の感想と質問」のフィードバックは、授業時またはユニパで行う。 ・期末試験の結果はユニパで連絡し、希望者には試験結果を開示する。				
【テキスト】	・ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 /中野綾美 他/メディカ出版/ISBN：978-4-8404-6515-1 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論/奈良間美保ほか/ 医学書院/ISBN：978-4-260-03860-7 ・ナースとコメディカルのための小児科学/白木和夫、高田哲 他/へるす出版/ISBN：978-4-86719-033-3				
【参考図書】	適宜紹介				
【アクティブラーニングを促す方法】	☒ A ディスカッション／ディベート ☐ B グループワーク ☐ C プレゼンテーション ☐ D 実習／フィールドワーク ☐ E その他（ ） ☐ F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	*看護師・医師として実務経験のある教員が、小児看護・小児医療における経験を生かして講義を行う。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	可（但し日本語）

【科目名】	災害看護セミナー			Seminar in Disaster Nursing	
【開講時期】	2025年度後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	＊根岸まゆみ				
【担当教員】	＊根岸まゆみ、＊竹熊カツマタ麻子、＊千原幸司（非常勤）				
【授業の概要】	平常時、発災直後（急性期）、亜急性期、復旧・復興期のうち、特に発災後の急性期・亜急性期における状況や健康問題を理解し、必要な看護技術の判断をすることができる。さらに、一住民及び看護職者として平常時からの準備・心構えについて検討し、災害時に学生・看護職者としてできることを判断することができる。				
【キーワード】	災害医療、災害看護、国際救助				
【ＤＰとの関連】	□DP1-1 □DP1-2 □DP2 □DP3 ■DP4 ■DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 大地震における医療的支援の実際を説明できる 2. 救急時に必要な基本技術を実践できる 3. トリアージ法を説明できる 4. 災害発生時・後のメンタルヘルス対策を説明できる 5. 災害発生以降に、看護学生として平常時も含め一住民としての対応や備えについて考察できる				
【授業方法】	講義、COIL授業、演習、グループディスカッション・プレゼンテーション・フィールドワーク、課題学習を併用して実施する。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第１回	授業ガイダンス・課題説明（根岸まゆみ）、静岡県における災害医療体制（静岡県地震防災センター所長）			事前：配布資料を通読 事後：課題レポート提出	
第２回	災害時の補備、平常時に看護学生・一住民としてできること（防災士によるゲスト講義）			事前：配布資料を通読 事後：課題レポート提出	
第３回	自主防災組織災害対応訓練の実践（根岸まゆみ、竹熊カツマタ麻子、静岡県地震防災センター職員、防災士）			事前：配布資料を通読 事後：学びをノートなどに整理	
第４回	自主防災組織災害対応訓練の実践とまとめ（根岸まゆみ、竹熊カツマタ麻子、静岡県地震防災センター職員、防災士）			事前：配布資料を通読 事後：学びをノートなどに整理	
第５回	災害時の臨床判断（根岸まゆみ）			事前：配布資料を通読 事後：課題レポート提出	
第６回	国内外の災害救護活動の事例報告（ゲスト講師、根岸まゆみ）			事前：教科書「第３章 地震災害看護の展開のA、B、C」を通読 事後：課題レポート提出	
第７回	避難所運営シミュレーションの実践：（根岸まゆみ、竹熊カツマタ麻子、静岡県地震防災センター職員、防災士）			事前：配布資料を通読 事後：学びをノートなどに整理	
第８回	避難所運営シミュレーションの実践とまとめ（根岸まゆみ、竹熊カツマタ麻子、静岡県地震防災センター職員、防災士）			事前：配布資料を通読 事後：学びをノートなどに整理	
第９回	災害時の包帯法（根岸まゆみ、予定教員、災害看護師ゲスト）			事前：教科書「付録 資料１ 応急処置・搬送方」を参考に、包帯法の練習をする 事後：演習で実施した包帯法の復習	
第１０回	被災者の運搬法（根岸まゆみ、竹熊カツマタ麻子、災害看護師ゲスト）			事前：教科書「付録 資料１ 応急処置・搬送方」を参考に、包帯法の練習をする 事後：演習で実施した包帯法の復習	
第１１回	災害時のフィジカルアセスメント（千原幸司）			事前：配布資料を通読 事後：学びをノートなどに整理	
第１２回	災害時のトリアージ（千原幸司、根岸まゆみ、竹熊カツマタ麻子）			事前：配布資料を通読 事後：課題レポート提出	
第１３回	海外における災害看護活動と災害看護師の役割（COIL授業：ゲスト講師、根岸まゆみ、竹熊カツマタ麻子）			事前：配布資料を通読 事後：英語による課題レポート提出	
第１４回	災害時のメンタルヘルス対策（根岸まゆみ）			事前：配布資料を通読 事後：課題レポート提出	
第１５回	まとめ（根岸まゆみ）				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間90分程度				
【履修条件】	国際保健・災害看護論の履修				
【関連科目】	国際保健・災害看護論				
【評価方法】	開講回数の2/3以上の出席を単位認定の前提とする。 課題レポート40％（DP5：到達目標1～5に対応）、演習実践40％（DP4、PD5：到達目標1～5に対応）、グループ発表20％（DP5：到				

2/2